

令和6年度（2024年度）教職員研修に関するアンケート結果の概要（学校管理職）

2025年3月 教職員育成課

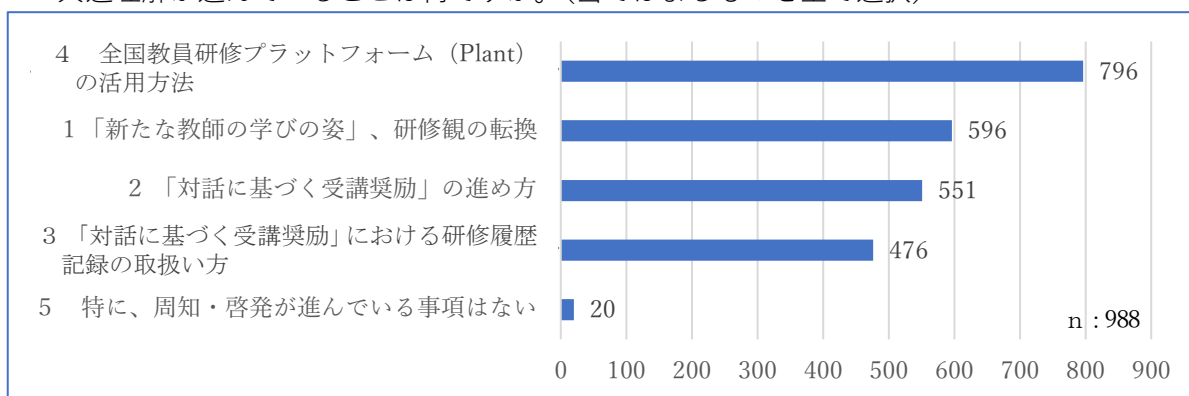
1 調査対象 道内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校（札幌市立を除く）の学校管理職（回答は任意）

2 回答数

校長	副校長	教頭	計
416	14	558	988

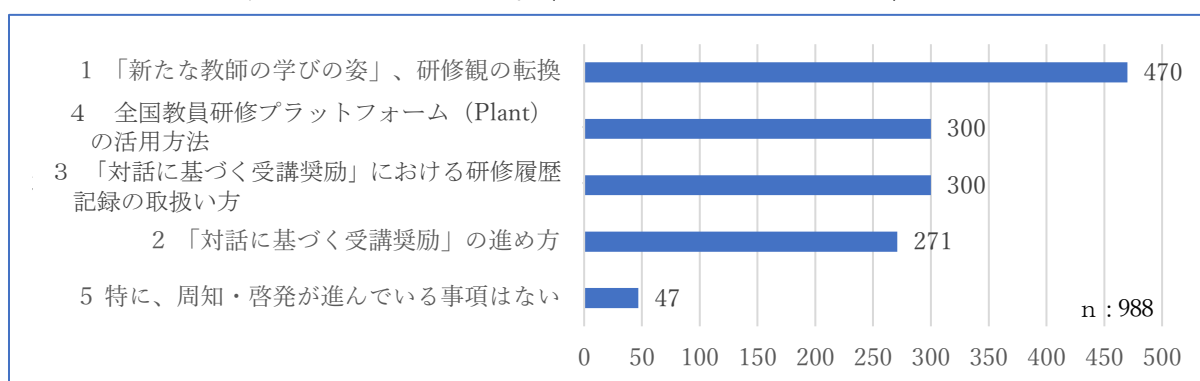
3 結果

問1 取組の成果 「新たな研修制度」2年目に当たり、所属職員への周知・啓発、学校全体の共通理解が進んでいることは何ですか。（当てはまるものを全て選択）



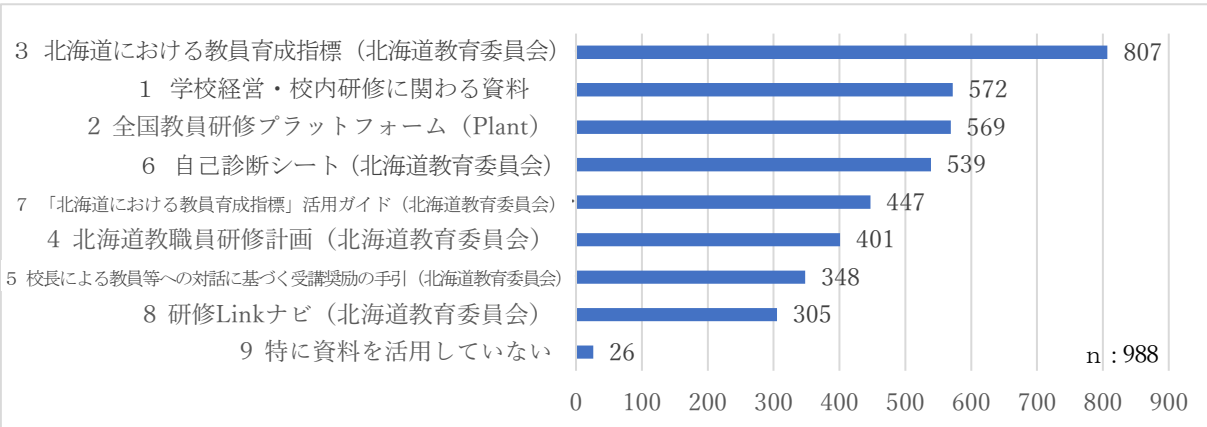
- ・全国教員研修プラットフォーム（以下、Plant という）の活用が最も多く、本年度からの本格運用について、各学校において周知・啓発が図られている。
- ・次いで、「新たな教師の学びの姿」や研修観の転換が多い。

問2 取組上の課題 「新たな研修制度」の実施に当たり、所属職員への周知・啓発、学校全体の共通理解が難しいことは何ですか。（当てはまるものを全て選択）



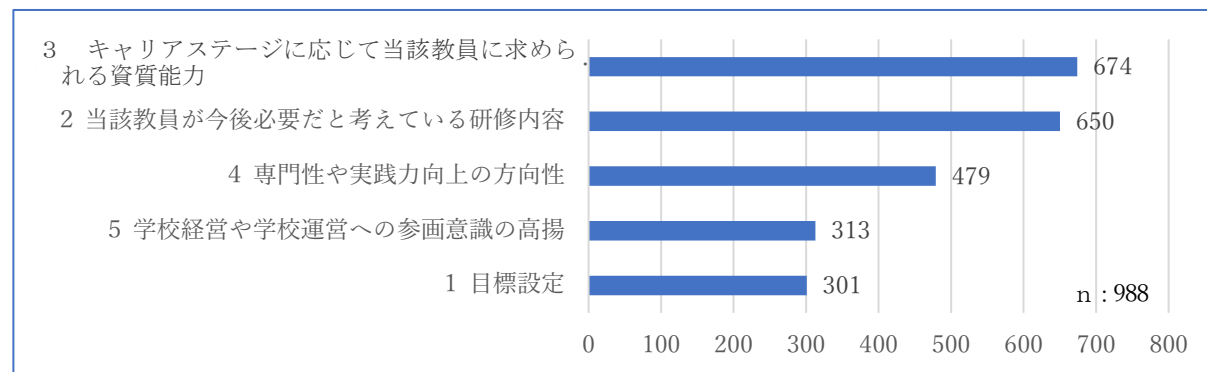
- ・「新たな教師の学びの姿」や研修観の転換が最も多く、問1の回答において、周知・啓発や共通理解が図られているとの回答が多く見られるものの、課題としても挙げられている。
- ・次いで、Plantの活用方法や研修履歴記録の取扱い方が多い。

問3 受講奨励（対話）で活用する資料等 教員が「新たな研修制度」について理解を深め、自身の学びをマネジメントするために、受講奨励（対話）では、どのような資料等を活用していますか。（当てはまるものを全て選択）



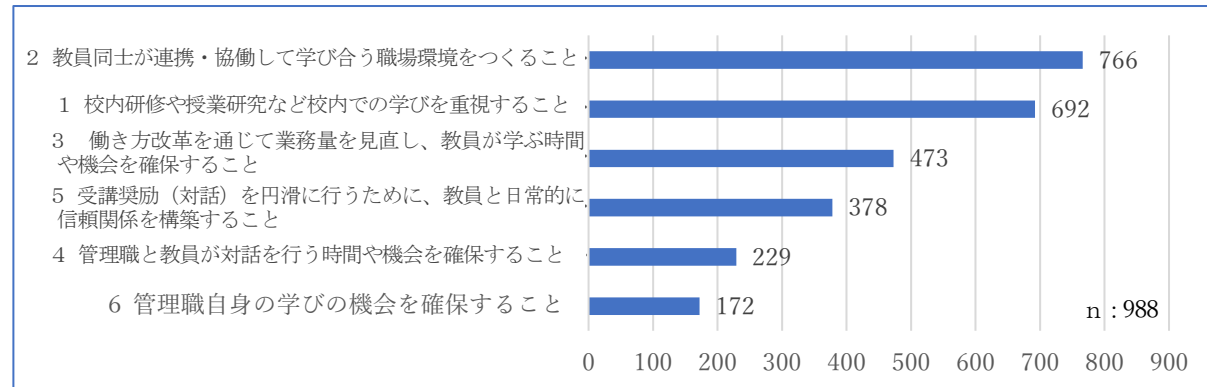
教員育成指標が最も多く、次いで、学校経営・校内研修に関わる資料や Plant が多い。

問4 受講奨励（対話）の内容 受講奨励（対話）において、時間をかけている内容は何か。（3つまで選択可）



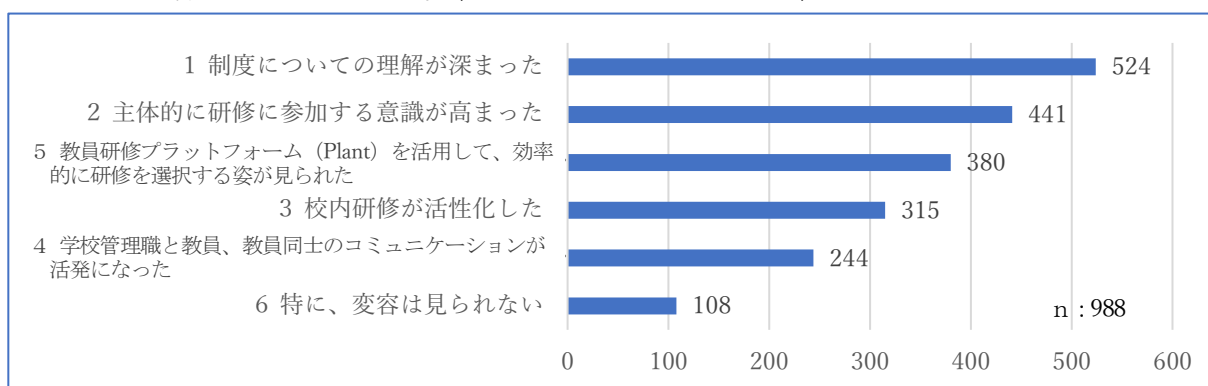
キャリアステージに応じて当該教員に求められる資質能力と、当該教員が必要だと考えている研修内容が多く、次いで、専門性や実践力向上の方向性が多い。

問5 「新たな教師の学びの姿」を実現するために重視していること 自校において「新たな教師の学びの姿」を実現するために、特に重視していることは何か。（3つまで選択可）



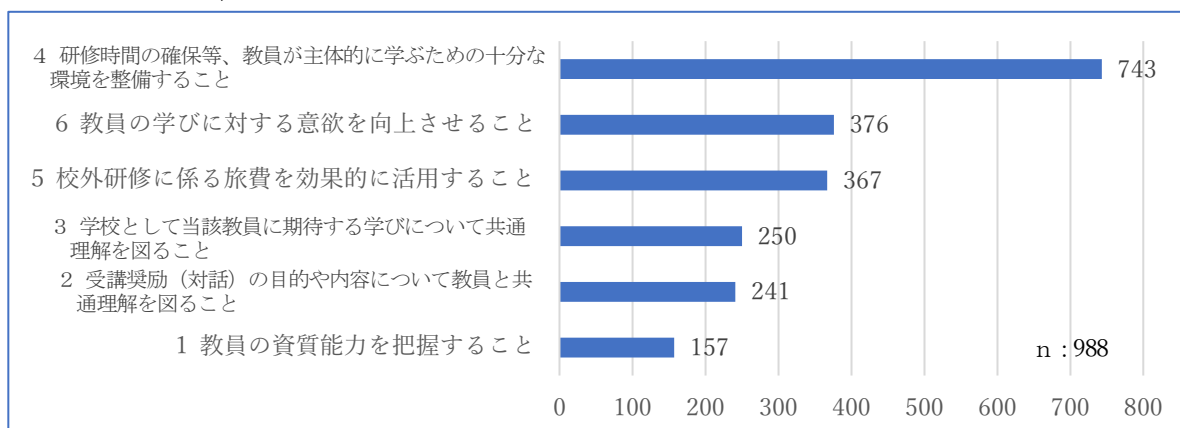
教員同士が連携・協働して学び合う職場環境をつくるのが最も多く、次いで、校内研修や授業研究など校内での学びを重視することが多い。

問6 取組上の成果 「新たな研修制度」2年目に当たり、実施初年度と比較して、教員にどのような変容が見られましたか。(当てはまるもの全てを選択)



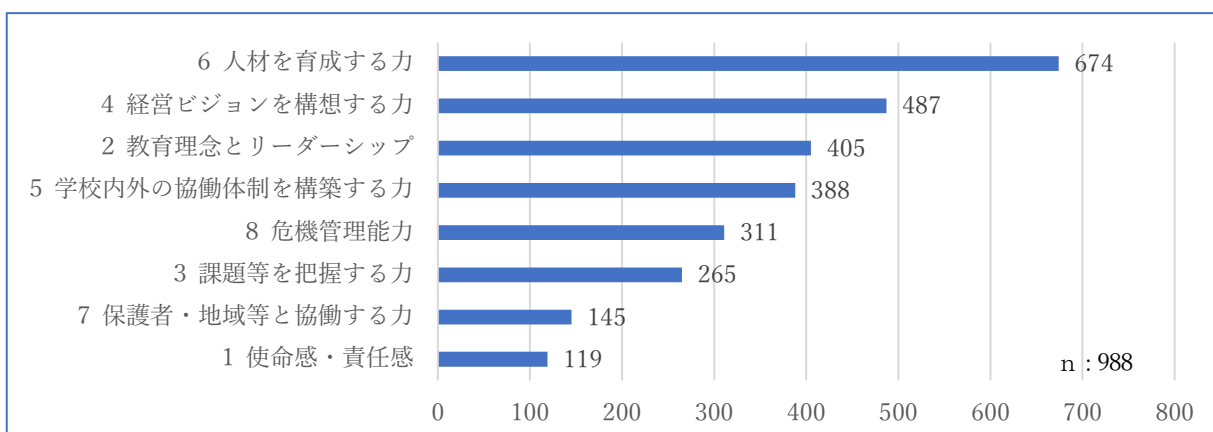
- ・ 制度についての理解が最も多く、次いで、主体的に研修に参加する意識の高まりが多い。
- ・ 1割程度の学校では、特に、変容は見られない。

問7 取組上の課題 受講奨励 (対話) を行う際、特に難しさを感じていることは何ですか。(3つまで選択可)



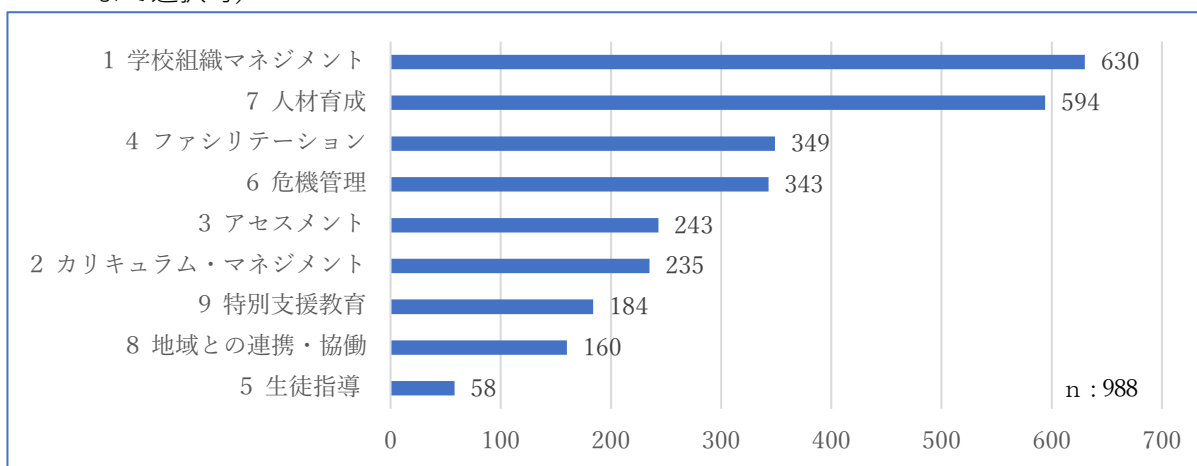
研修時間の確保等、教員が主体的に学ぶための十分な環境を整備することが最も多く、次いで、教員の学びに対する意欲を向上させることが多い。

問8 学校管理職に求められる資質能力 今後、特にどのような資質能力を高めていきたいですか。(3つまで選択可)



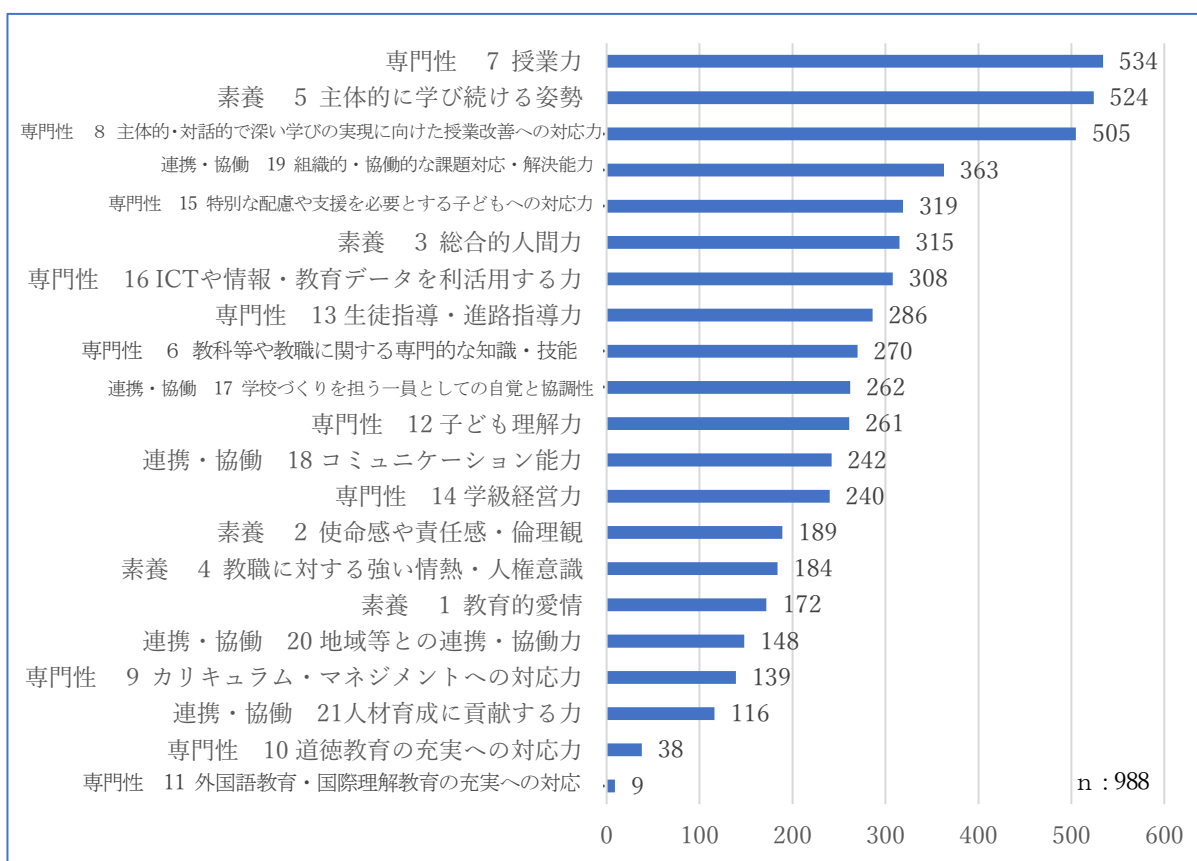
人材を育成する力が最も多く、次いで、経営ビジョンを構築する力や、教育理念とリーダーシップが多い。

問9 学校管理職に求められる研修内容 今後、特にどのような研修内容を学びたいですか。(3つまで選択可)



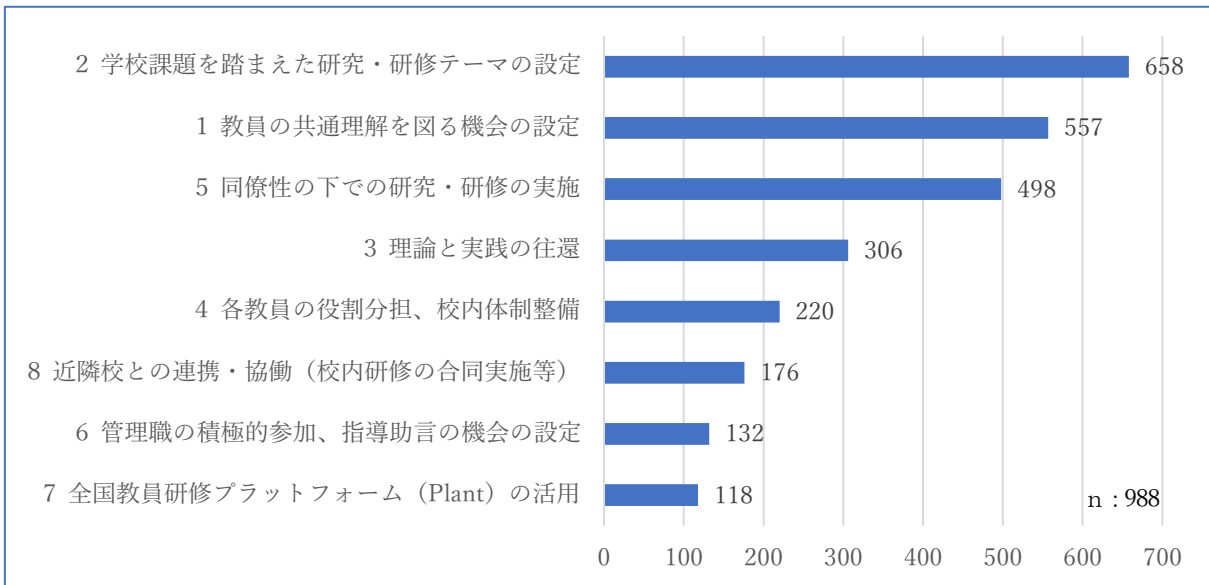
学校組織マネジメントが最も多く、次いで、人材育成が多い。

問10 教員に求められる資質能力 自校の教員に、今後、特にどのような資質能力を高めてほしいですか。(6つまで選択可)



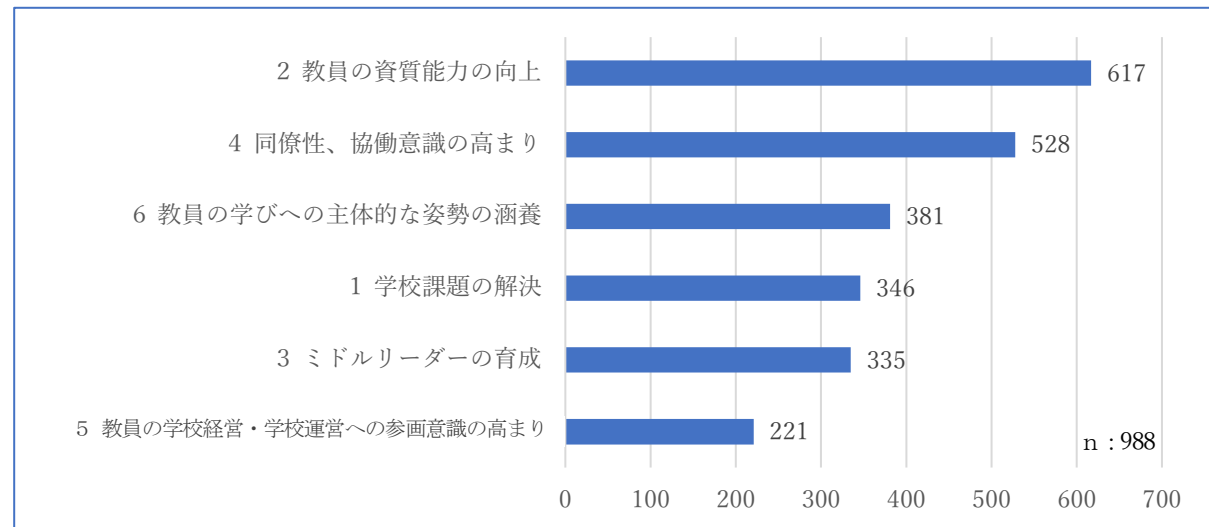
授業力、主体的に学び続ける姿勢、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善への対応力が多く、次いで、組織的・協働的な課題対応・解決能力が多い。

問 11 取組状況 自校の校内研修の活性化に向けて、どのようなことを重視して取り組んでいますか。(3つまで選択可)



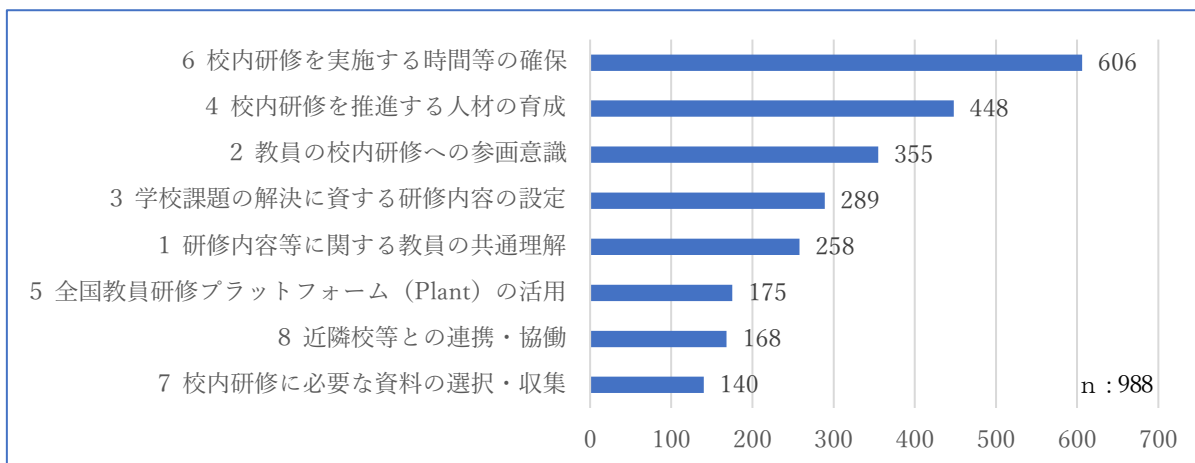
- ・学校課題を踏まえた研究・研修テーマの設定が最も多く、次いで、教員の共通理解を図る機会の設定や、同僚性の下での研究・研修の実施が多い。
- ・校内研修の活性化において、Plantの活用を重視している学校は、約1割にとどまっている。

問 12 校内研修の活性化による成果 校内研修の活性化により、どのような成果が見られていますか。(3つまで選択可)



教員の資質能力の向上が最も多く、次いで、同僚性、協働意識の高まりが多い。

問 13 校内研修の活性化を図る際の課題 校内研修の活性化を図る際に、どのような課題があると感じていますか。(3つまで選択可)



- ・校内研修を実施する時間等の確保が最も多く、次いで、校内研修を推進する人材の育成が多い。
- ・3割以上の学校で、教員の校内研修への参画意識に課題を感じている。

問 14 校内研修の活性化を図る際の工夫 校内研修の活性化を図るために、どのような工夫をしていますか。(記述式)

○ 主な記述内容

【テーマ】・学校課題の解決 ・今日的な課題 ・実践的な内容 ・個人の希望する課題

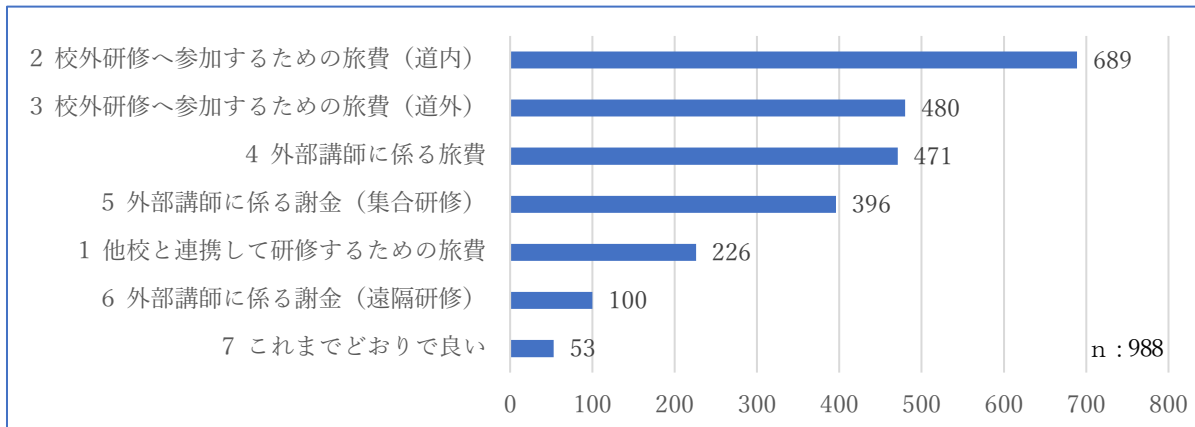
【方 法】・研修主事・担当、ミドルリーダーによる推進

- ・全職員の共通理解を基にした推進
- ・外部講師の活用 ・ICT の活用 ・1人1実践 ・短時間のミニ研修
- ・研修日以外の日常的な学び合い

【環 境】・時間の確保（研修日に会議や部活動を入れない、日課を調整する、短時間での職員会議後に研修を実施）

- ・協働的な雰囲気醸成（日常的な対話、全員が話しやすい小グループの協議、ICT（チャット等）を活用した意見交換）

問 15 研修の活性化を図るための予算措置について 研修の更なる活性化・充実を図るためには、どのような予算措置が今後、より一層必要となると考えますか。(3つまで選択可)



校外研修へ参加するための旅費（道内外）が最も多い。